

2017年度 紙パック回収率



2017年度の紙パック回収率は
43.4%でした。

紙パックリサイクルに関する情報を関係者や社会に提供するため、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2018年も6月～10月に実施され、2017年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2017年度の紙パック全体の回収率は43.4%（前年度比で0.9ポイント減）、使用済み紙パック回収率は34.9%（0.7ポイント減）となりました。

※2017年度実態調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー295社・市区町村1,736・小学校1,988・スーパーマーケット等1,061・市民団体および福祉施設22等をアンケート調査対象にし、あわせてヒアリング調査を実施しました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済み紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2017年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

43.4%
(2016年度 44.3%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=96.6千トン / 222.5千トン

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

34.9%
(2016年度 35.6%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=66.6千トン / 191.0千トン

参考 再活用や他の古紙への排出を反映した回収率

使用済み紙パックの中には、廃棄する前にまな板代わりに再活用されるものや、他の古紙として回収され紙パックとして分別されながらも回収量に計上されないものがあります。前者を分母から控除し、後者を分子に加えたときの各回収率は次のようになります。紙パック回収率=45.8%、使用済み紙パック回収率=37.3%

市町村回収や集団回収の
紙パック取引価格が
上昇しています

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料であり、高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、資源価格以外の条件がついていない取引を対象に、相手先別に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収(東京特別区の回収を含む)と集団回収の価格を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村回収では、概ね横ばいもしくは高値になりました。集団回収では、引渡価格がやや低下し、持込価格が上昇しました。平均価格は、市町村回収、集団回収とも前年度より高値となっています。

紙パック古紙の平均取引価格

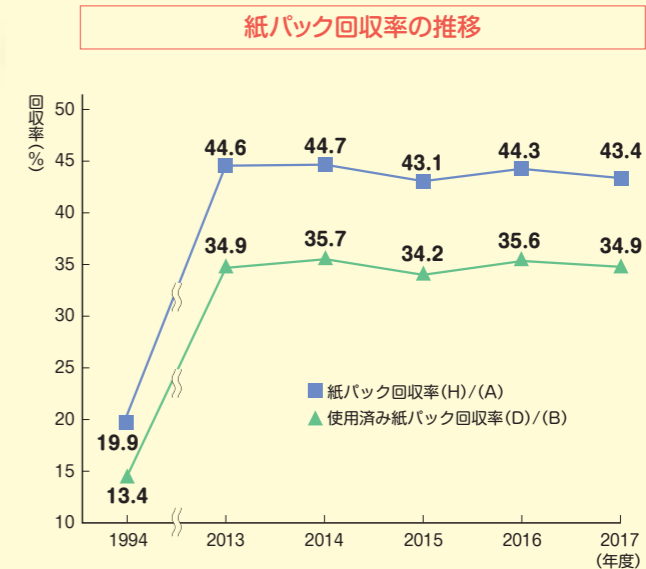
年度		2014	2015	2016	2017	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.9	8.0	7.8	7.8
		持込価格	7.0	7.7	8.1	8.5
	古紙原料問屋	引渡価格	9.0	8.4	10.3	10.6
		持込価格	9.3	9.4	9.4	9.8
	製紙メーカー	引渡価格	8.6	6.8	7.6	6.5
		持込価格	12.0	7.8	9.4	10.3
平均価格		7.9	8.3	8.6	8.9	
集団回収	取引先不問	引渡価格	5.2	5.5	5.7	5.5
		持込価格	6.0	5.7	6.7	8.9
	平均価格	5.4	5.6	6.0	6.4	

(円/kg)

2017年度の紙パック回収量は
96.6千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2017年度の国内紙パック回収量は、前年度より3.3千トン(3.3%)減少した96.6千トンでした。紙パックメーカーの損紙発生率が減少傾向にあり、産業損紙・古紙は前年度から1.4千トン減少しました。使用済み紙パックは、市町村の回収量は前年度並みでしたが、店頭回収と集団回収等が減少し、使用済み全体では前年度から1.9千トン減少しました。



主要データの推移 (単位:千トン)

区分	1994	2013	2014	2015	2016	2017	対前年度	
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	238.2	233.7	228.3	225.4	222.5	-1.3%	
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	33.5	31.4	29.7	29.8	28.2	-5.3%	
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	2.4	2.2	1.9	1.9	2.1	+9.2%	
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	202.1	199.3	196.0	192.6	191.0	-0.8%	
家庭系(C)	168.7	178.5	176.2	176.2	169.8	170.7	+0.6%	
事業系出荷量	29.2	23.6	23.1	19.8	22.8	20.3	-10.9%	
学校給食	10.7	11.8	11.7	11.6	11.6	11.8	+1.6%	
飲食店等	18.5	11.7	11.3	8.3	11.2	8.6	-23.8%	
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	70.6	71.1	67.0	68.5	66.6	-2.7%	
家庭系(E)	25.9	59.4	60.4	56.3	57.8	56.1	-3.0%	
店頭回収	13.8	32.3	31.9	30.4	29.3	28.4	-3.2%	
市町村回収	4.3	13.6	12.8	12.2	11.6	11.6	+0.0%	
集団回収等	7.8	13.5	15.7	13.7	16.9	16.1	-4.7%	
市町村把握	7.8	9.1	8.4	8.8	8.6	8.0	-7.1%	
古紙原料問屋による独自回収等	-	4.4	7.3	4.9	8.3	8.1	-2.2%	
事業系(F)	0.6	11.2	10.7	10.7	10.6	10.5	-1.0%	
学校給食	0.6	9.3	8.8	8.8	8.7	8.7	-0.3%	
飲食店等	-	1.9	1.9	2.0	1.9	1.8	-4.4%	
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	35.7	33.3	31.3	31.4	30.0	-4.4%	
紙パックメーカー	16.5	33.5	31.4	29.7	29.8	28.2	-5.3%	
飲料メーカー	-	2.2	1.9	1.7	1.6	1.8	+10.7%	
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	106.3	104.4	98.3	99.9	96.6	-3.3%	
紙パック古紙輸入量	-	12.8	18.6	19.8	19.8	19.8	±0.0%	
紙パック総受入量	43.0	119.1	123.0	118.1	119.6	116.4	-2.7%	
紙パック再資源化量	30.1	93.7	95.4	95.1	96.4	93.8	-2.7%	
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	44.6%	44.7%	43.1%	44.3%	43.4%	-0.9ポイント
	使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	34.9%	35.7%	34.2%	35.6%	34.9%	-0.7ポイント
	家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	33.3%	34.3%	31.9%	34.1%	32.9%	-1.2ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

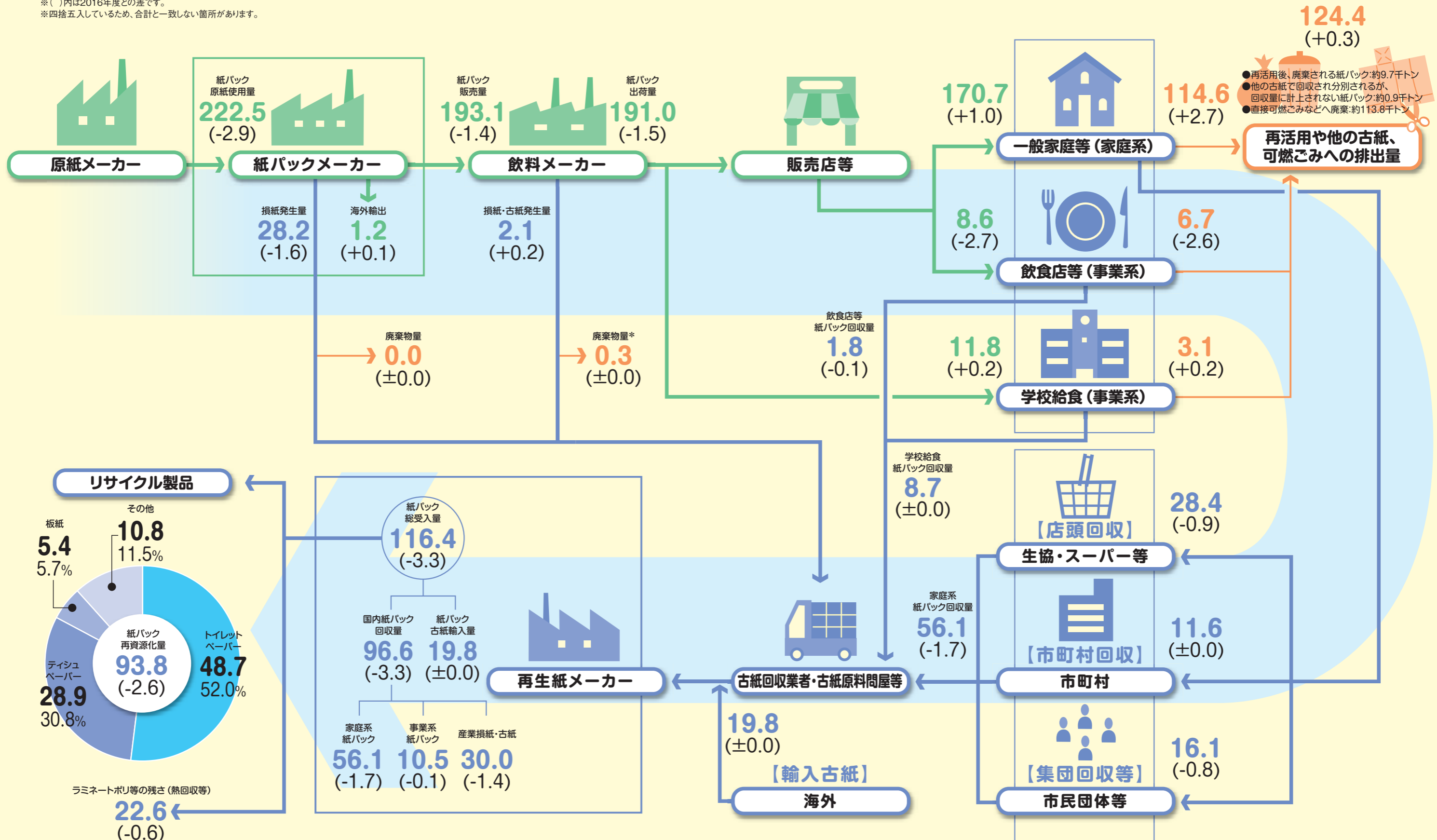
※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2017年度 紙パックマテリアルフロー



2017年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2016年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。